

### ハッ場ダムを考える 1 都 5 県議会議員の会発足

茨城から青山大人(民主)、大内久美子・山中たい子(共産)の 3 議員入会。

5 月 19 日、東京の星陵会館において東京、千葉、埼玉、茨城、栃木、群馬の 1 都 5 県の県(都)議会議員による「ハッ場ダムを考える 1 都 5 県議会議員の会」が発足しました。

1 都 5 県の議会は茨城県と同様、知事の与党を任ずる議員が多数派を占め、ハッ場ダムの工期延長に際しても、まともな審議もせずに承認してしまいました。

「都県がバラバラに動いては何も実らない」危機感を抱いた群馬県議会の門倉邦良、関口茂樹議員ほか超党派の議員 4 人が呼びかけ人となり、各都県の心ある議員が呼応して同会は結成されました。現在の会員は 63 名。まだまだ少数ですが、今後事業費の増額を目論む国交省と各都県の知事にとっては大きな壁になるでしょう。

なお同会は自民党系から共産党まで幅広い議員をまとめることから、当面は「ハッ場ダムの事業を監視する」としてはいますが、世話人の関口議員は「ハッ場ダムの議論を進めれば、事業の見直し、建設中止後の地元住民の生活再建法案の整備にまで踏み込むことになるだろう」と語っています。群馬県議会に「ハッ場ダム建設推進議連」発足。

6 月 4 日、群馬県議会の自民党、公明党、ポラリスの議員 35 名が「ハッ場ダム建設推進議連」を発足させました。同議連は今後下流都県の議員に呼びかけて行くと言う。なお、発足総会では自民党県連幹事長の南波和憲議員が「この段階ではダムを完成させなければ、地元住民は幸せになれない」と挨拶しました。ちなみに南波議員はハッ場ダムから仕事を請けている「南波建設」のオーナー。公私共にハッ場ダムを推進してきた南波議員が「この段階では・・・」とは・・・。

### ハッ場裁判証人尋問スケジュール決定。

被告最後の抵抗か。利水証人と治水証人が入り組む珍現象。

7 月 15 日、7 月 29 日に予定されているハッ場ダム裁判の証人尋問のスケジュールが決定しました。当初は 15 日に利水関係、29 日に治水関係の証人尋問を予定していましたが、被告側より治水の敵性証人、河崎氏と早乙女氏は 29 日は都合が悪いと申し出があり、原告側の大熊証人の調整が不可能なため、下記のように利水と治水の証人が入り組む形になりました。

7 月 15 日(午前 10 時～12 時 午後 1 時 30 分～5 時 各 90 分)

原告側利水証人：嶋津暉之(茨城県の過大な水需給計画を追及)

敵性治水証人：河崎和明(元国交省関東地整河川部長・利根川水系河川整備基本方針策定責任者)

早乙女秀男(茨城県土木河川課長・茨城県の河川行政責任者)

7 月 29 日(午前 10 時～12 時 午後 1 時 30 分～5 時 各 90 分)

原告側治水証人：大熊孝(新潟大学教授・利根川の治水計画、基本高水 22000 トンを追及)

利水証人：柏村忠志(土浦市議・土浦市の水道問題から県の水行政を追及)

敵性利水証人：根本雅博(元茨城県水土地対策課課長・2003 年度水のマスタープラン策定責任者)

仙波操(前茨城県水土地対策課課長・2007 年度水のマスタープラン策定責任者)

ハッ場裁判はいよいよクライマックス。熱い思いを秘めて傍聴席を埋め尽くしましょう  
裁判は一日中やっています。どこからでも傍聴できます。出入りも自由です

衆議院議長 河野洋平殿

カスリーン台風が再来しても「ハッ場ダムの治水効果はゼロ」です。

内閣総理大臣 福田康夫

6月6日、民主党の石関貴史議員(衆)の「ハッ場ダムに関する質問主意書」に対し、政府答弁書が出されました。質問と答弁の要旨は下記の通りですが、内閣総理大臣福田康夫の名による「ハッ場ダムは無用」の公式答弁は裁判の行方を決定づけるでしょう。

質問 カスリーン台風再来時のハッ場ダムの治水効果

利根川の治水計画のベースとなっているのは、1947年のカスリーン台風洪水である。このカスリーン台風が再来した場合、ハッ場ダムは治水基準点「八斗島」においてどのような治水効果があるのか、ハッ場ダムが無い場合の洪水ピーク流量、ハッ場ダムがある場合の洪水ピーク流量をそれぞれ計算した結果を明らかにされたい。

答弁 国土交通省において、昭和22年9月の洪水時と同程度の降雨量及び同洪水時の降雨パターンを基に、一級河川利根川の八斗島地点における流出計算を行った。

八斗島上流にダムが無い場合・・・・・・・・・・22,170m<sup>3</sup>/秒

既設の6ダムだけの場合・・・・・・・・・・20,421m<sup>3</sup>/秒

既設6ダムにハッ場ダムを加えた場合・・・・・・・・20,421m<sup>3</sup>/秒

コメント

既設6ダムは、相俣ダム、藤原ダム、奈良俣ダム、八木沢ダム、藤原ダム、下久保ダム

答弁書の数字は基本高水22,000m<sup>3</sup>/秒に合わせたものと思われます。先に情報公開請求によって入手したデータは、16,750m<sup>3</sup>/秒。基本高水22,000m<sup>3</sup>/秒との差は何かとの問合せには、既設の6ダムと氾濫によるものだと回答されました。既設6ダムの効果は1,749m<sup>3</sup>/秒だが氾濫分の3,500m<sup>3</sup>/秒はどこで氾濫するのかの問いには、資料が無い。と回答できませんでした。いずれにしてもハッ場ダムの治水効果はゼロであることは確かです。なお政府答弁は「上記の数字はあくまでもカスリーン台風の降雨パターンであり、吾妻川流域に大雨が降った時にはハッ場ダムの治水効果はある」としています。しかしその欺瞞性は次の質疑で暴露されています。

質問 ハッ場ダムの治水計画について

昨年9月の台風9号と2001年9月の台風15号の降雨量は、ハッ場ダムの治水計画に採用されている100年に一回の降雨量に匹敵するものであった。しかしこの時ダム予定地近傍の岩島地点で計測された実測流量は、国が想定している机上計算によるハッ場ダムへの最大洪水流量3,900m<sup>3</sup>/秒の28%から30%にすぎなかった。

答弁 ハッ場ダムの治水計画は、昭和61年7月に作成された「特定多目的ダム法」によって定められている。計画値とお訊ねの2洪水の岩島地点の流量は次の通り。

	3日間雨量	ハッ場ダム流入量	ダム調節量	流下量
ハッ場ダム計画値	354mm	3,900m <sup>3</sup> /秒	2,400m <sup>3</sup> /秒	1,500m <sup>3</sup> /秒(ダム直下)
2001年台風15号	341mm	(1,271m <sup>3</sup> 以下)	0	1,271m <sup>3</sup> /秒(岩島地点)
2007年台風9号	323mm	(1,010m <sup>3</sup> 以下)	0	1,010m <sup>3</sup> /秒(岩島地点)

コメント

岩島地点はハッ場ダム直下より流域面積が大きい為、2台風の直下流量はもっと小さくなります。

(上記は紙面の関係で要訳しています。全文はハッ場あしたの会HPをご覧ください)

ハッ場ダムをストップさせる茨城の会 代表：近藤欣子 濱田篤信 柏村忠志

事務局：神原禮二 〒302-0023 取手市白山 1-8-5 tel/fax：取手 0297-72-7506 長野原 0279-84-7010